



良質な言語環境が、人に潤いを与える、ということ ～「舟を編む」から～

三浦しをん作。主人公が辞書作りの先頭に立ち、チームワークよろしく団結を組み、とうとう大作の辞書を作り上げるという話。高嶺と思われた女性もパートナーとなっていた。辞書づくりにかける熱意、構え。本当に腹をくくり、志を掲げた人は強く、揺るぎはない。

「記憶は言葉によってこそ、蘇り懐かしむ」という意味の記述があった。物事、森羅万象が言語化されて意味を持つものらしい。過去を振り返り、いとおしむこと、未来に向かって勢い羽ばたこうとするのも、すべて言語化し、認識レベルを高めた結果であるらしい。言語が格調高く、かつ具体的な場合、人の「在り方生き方」もおのずとそうなり、高まっていく。そんなことが、この本を読んで、確証づけられた気がする。

三浦しをんの作品は、言語がいかにも格調あり、読んでいてバランスがほどよい。良質な言語環境そのものだ。言葉遣いは、言語学者たる父らの優れた人材ある環境のもとで育った証左だ。本自体が辞書代わり。日常のありふれた一動作にも彩りを与え得るものだ。人は、一定の水準以上のものに接すると、素直に受け、学び取りたい、伸びたいと思う。この本がなぜこんなにも話題になっているのか。良質なものを求める人の率直な感性が、自然と志向するのだ、と思った。



小論文ワンポイントアドバイス = 「**志望理由書**」の視点の一例 =

◎哲学を持ち、危機意識がいかにあるか！ … 常に問い直すべき。これはどの分野でも。

- 人文…①作品の背景：文学を学ぶことは、決してその作品を読むことだけではなく、その背景となる作家自身の生活や環境などが影響している。背景・環境への考察を試みたい。
②描写の必要性：一見退屈な描写は不完全な読者を振り落とす要素。神の視点は人間にリアリティーを感じさせるため、あえて場面設定に精緻な描写を必要とした。
- 教育…子どもの発達段階：人間にはその時その時期など、発達していく過程で身につけなければならないことが多くある。発達段階に応じて適時に適切な教育を行いたい。
- 経済…経営感覚：例えば税理士。単なる数値計算の役割ではなく、むしろ企業経営者にアドバイスできる力量が問われる。あえて言うならば、「社外副社長」。経営感覚を磨きたい。
- 地域…伝統とこだわり：地元に対する愛着と楽しみの志向。「持続可能なまちづくり」をキーワードに、老若男女による合意形成が必要。地域の強みを分析し、周囲へ発信したい。
- 工学…チェックの重要性：ロボットコンテストの一例。部分テスト、総合テスト、最終テストなど、リスク管理を行っている。このことは物事の徹底管理の手法である。
- 農学…健康志向と本物志向：無農薬栽培などの難しさややりがいを実地に体験したい。多大な労力に見合う安定的な環境を生み出し、健康志向をかなえる契機としたい。
- 看護…人の痛みを理解する：いくつかの病院実習、看護体験から共通性を見いだした。支援を必要とする患者さんの視点を理解すること。技術以前のとらえ方、手当の効用の観点。
- 国際…自立支援の視点：書籍を複数読み、ジャーナリストの活動を目の当たりにして学んだ。弱者へのまなざしとともに、一方的に与える支援ではなく、自立を見守ること。
- 薬学…薬の功罪：薬は効用の部分だけにとらわれてはならない。むしろ薬害の部分に目を向け、人体への薬の有害性について意図したい。有害性を前提に可能性を見つめたい。
- 福祉…医療行為のリスク：医療行為がむしろ機能回復や治療行為に反し、リスクを伴うことを承知し、医療活動を行いたい。適時に適切な援助で患者さんへ安心感を与えること。
- その他…勝者と敗者の視点。命をいただくという視点。現象学の視点。ポストモダンの視点。

※積極的にフィールドワークを行いたい。実際に体験したり、専門家に尋ねたりして、思考を整理したい。